

教科に関する調査の設問別の分析結果「書くこと」(詩を味わう「樹」)

全国学力・学習状況調査 中学校国語 B問題 3

【出題の趣旨】

語句の効果的な使い方に注意して詩の内容をとらえたり、詩の内容や構成、表現上の特徴などを踏まえ、写真という性質が異なる作品と関連付けて、自分の考えを書いたりすることができかどうかをみる。

【学習指導要領の内容・領域】

B書くこと(第二学年及び第三学年)

エ 自分の意見が相手に効果的に伝わるように、根拠を明らかにし、論理の展開を工夫して書くこと。
《記述》

C読むこと(第二学年及び第三学年)

オ 目的をもってさまざまな文章を読み、必要な情報を集めて自分の表現に役立てること。
《情報の活用》

二 写真又は、詩のどの部分に着目し、どのように感じたのかを書くこと。
三 選んだ写真のどのような部分が詩と合うと考えたのかを説明すること。
四 詩の中の言葉を使って書かれていない。
五 左記以外について
解答類型5と3に重複してあてはまる。

	正答率
本校	29.2%
広島県	

解答類型	1	2	3	4	5	6		左記以外	無解答
本校の割合 (%)	29	0	4	0	46	0		21	0

この問題を解くために必要な力

- 詩のどこに着目し、どのように感じたのかを書く力。
- 選んだ写真のどのような部分が詩と合うと考えたのかを説明する力。

誤答分析

- 解答類型5について
「だから、私はこの写真と組み合わせます。」に続くような、整った文章で書かれていない。
「～思ったからです。だから、私は～」という誤った表現で書いている生徒が多かった。
- 解答類型3について
詩の中の言葉を使って書かれていない。
- 左記以外について
解答類型5と3に重複してあてはまる。

以上のことから、生徒のつまずきの原因として、考えを整理して自分の感想や意見を伝えていく際に、整った文章で根拠を挙げながら説明することができていないということが考えられる。

調査結果の分析をふまえた指導改善のポイント

全国学力・学習状況調査 中学校国語 B問題 3

【単元名】 写真と関連させて詩を味わおう

調査結果からみる課題

【課題となる力】

詩のどこに着目し、どのように感じたのかを書く力。

選んだ写真のどのような部分が詩と合うと考えたのかを説明する力。

【指導上の課題】

考えを整理して自分の感想や意見を人に伝えていく際に、整った文章で根拠を挙げながら説明させる指導の工夫が十分ではない。

文学的な文章と写真・絵画などの作品と比較したり関連付けたりする学習が十分ではない。

指導改善のポイント

写真と関連付けて、根拠を挙げて説明する。

【指導の工夫】

- ① 説明文について、どのような条件で書けばよいか、既習事項をもとに考えさせる。
- ② 数枚の写真の中から、その詩に合った写真を選ばせ、その根拠を第三者に伝えるように説明させる。
- ③ 書いた説明文を推敲（比較・分析）、交流させる。

今までの学習を基に、説明文を書くときの必要な条件を確認させる。

- ・整った文章で書いている。《尾括型・頭括型・双括型》
- ・根拠、理由を挙げて述べている。
- ・字数の条件を満たしている。

数枚の写真の中から、その詩に合った写真を選び、その根拠を第三者に伝えるように説明するときの条件を考えさせる。

- ・自分がどの写真を選んだのか、立場を明確にしている。
- ・組み合わせる理由が分かるように詩と選んだ写真とを関連付けて書いている。
- ・詩の中の言葉を使って書いている。
- ・整った文章で書いている。
- ・字数の条件を満たしている。

との違いを考えさせる。

自分の立場を明確にし、それを裏付ける根拠を明確にして書く。

第3学年 国語科学習指導案

単元名：写真と関連させて詩を味わおう

1 日	時	平成21年6月5日（金）14:00～14:50
2 場	所	2階3A教室・2階学習室
3 学	年	第3学年A組（男子12名 女子13名 計25名）
4 単元名・教材		写真と関連させて詩を味わおう

単元について

本単元は、学習指導要領の「B書くこと」（第2学年及び第3学年）の「エ 自分の意見が相手に効果的に伝わるように、根拠を明らかにし、論理の展開を工夫して書くこと」《記述》，と「C読むこと」（第2学年及び第3学年）の「オ 目的をもって様々な文章を読み、必要な情報を集めて自分の表現に役立てること」《情報の活用》を受け設定した。

本単元では、詩を読んで、その内容、構成、表現上の特徴を踏まえた上で、写真・絵画などの性質の異なる作品と比較し関連付ける学習を行う。自分の考えを第三者に伝わるように根拠を挙げながら説明する学習を通して、作品への理解を深めるとともに思考力、判断力、表現力を一体的に育成することをねらいとする。

そのねらいを達成するために、まず、説明文の条件を確認させた上で、教材として教科書に挙げられている詩「初恋」を扱い、写真と関連させて詩を味わっていく。そして、詩と自分が選んだ写真を組み合わせ、その理由が分かるように記述させていく。その時に、自分が詩のどこに着目し、どのように感じたのか、自分が選んだ写真のどのような部分が詩と合うと考えたのかといったことを押さえる。

なお、この学習にあたっては、新学習指導要領の「書くこと」に示されているように、「課題設定や取材」「構成」「記述」「推敲」「交流」といった学習過程に配慮する必要がある。

以上のことから、本単元は「書くこと」について生徒の課題に対応した学習になると考える。

調査結果からみる課題

< 誤答分析から >

○「全国学力・学習状況調査」B 主として「活用」に関する問題 3

(1) 問題の概要

詩と写真を組み合わせ3つの条件にしたがって文章を書く。

条件1・・・その写真と組み合わせる理由が分かるように、詩と選んだ写真と関連付けて書くこと。

条件2・・・詩の中の言葉を使って書くこと。

条件3・・・解答用紙に書かれている後ろの文に続くように、60字以上、90字以内で書くこと。

(2) 出題の趣旨

詩の内容や構成、表現上の特徴などを踏まえて写真を選び、詩と関連付けて自分の考えを書くことができる。

(3) 誤答分析

- ・ 解答類型 5 について

「だから、私はこの写真と組み合わせます。」に続くような、整った文章で書かれていない。

- ・ 解答類型 3 について

詩の中の言葉を使って書かれていない。

以上のことから、生徒のつまずきの原因として、考えを整理して自分の感想や意見を伝えていく際に、整った文章で根拠を挙げながら説明することができていないということが考えられる。

<指導上の課題>

- 考えを整理して自分の感想や意見を人に伝えていく際に、整った文章で根拠を挙げながら説明させる指導の工夫が十分ではない。
- 文学的な文章と写真・絵画などの作品と比較したり関連付けたりする学習が十分ではない。

指導改善のポイント

(1) 「ひろしま学びのサイクル」との関連について

〈しっかり教える〉

- 基礎的・基本的な知識・技能として既習事項である説明文の書き方を振り返らせる。

〈じっくり考えさせる〉

- 詩の内容や構成、表現上の特徴を踏まえてじっくりと読み味わわせる。

〈はっきり表現させる〉

- 性質の異なる写真という作品と関連づけた理由を「書くこと」で表現させていく。

(2) 「ことばの教育」との関連について

「言語技術」を活用した指導を通して、生徒に付けたい力は次の通りである

- 「初恋」のイメージに合うと思うものを選び、説明文を書く場面。
 - ・・・■ 構成を考えて書く力
- お互いの作品を比較・分析する場面。
 - ・・・■ 相手や目的に応じて必要な情報を分析、整理する力
- 選ばれた説明文を発表する。
 - ・・・■ 具体的な理由・根拠を明らかにして意見を述べる力

単元の目標

国語への関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・既習事項を積極的に振り返ったり、正答の条件を考えたりしようとしている。	・自分の意見が相手に効果的に伝わるように、根拠を明らかにし、論理の展開を工夫して書いている。 ・自分の立場が明らかになるように考えを整理したり、互いの文章を読み合ったりして考えを深めている。	・目的をもって詩を読み、必要な情報を集めて自分の表現に役立てている。	・詩の形式と文語のもつ表現効果を理解して、朗読に生かしている。 ・多義的な意味を表す語句の意味に注意する。 ・文の中の文の成分の順序や照応、文の組立てなどについて考える。

指導と評価の計画

(全4時間)

次	学習内容(時数)	評 価				評 価 規 準	評価方法
		関	書	読	言		
一	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力調査の問題を振り返る。 ・今までの学習をもとに説明文を書く条件を振り返る。 <p style="text-align: right;">(1)</p>	◎			○	<ul style="list-style-type: none"> ・正答の条件を考えようとしている。 ・既習事項を積極的に振り返ろうとしている。 	観察 発表 ワークシート
二	<ul style="list-style-type: none"> ・「初恋」を読み鑑賞する。 <p style="text-align: right;">(1)</p>			◎	○	<ul style="list-style-type: none"> ・詩の形式と文語のもつ表現効果を理解して、朗読に生かしている。 ・目的をもって詩を読み、必要な情報を集めて自分の表現に役立てている。 	ワークシート
三	<ul style="list-style-type: none"> ・「初恋」のイメージに合う写真を選び理由を説明する文章を書く。 ・グループで比較分析する。 <p style="text-align: right;">(1) 【本時1 / 1】</p>		○			<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見が相手に効果的に伝わるように、根拠を明らかにし、論理の展開を工夫して書いている。 	作品
四	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの文章を交流し合う。 ・評価問題をす <p style="text-align: right;">(1)</p>		○			<ul style="list-style-type: none"> ・自分の立場が明らかになるように考えを整理したり、互いの文章を読み合ったりして考えを深めている。 ・自分の意見が相手に効果的に伝わるように、根拠を明らかにし、論理の展開を工夫して書いている。 	ワークシート 作品

本時の学習

(1) 本時の目標

- ・詩と組み合わせる写真を選び、詩と関連付けた文章を書くことができる。

(2) 本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準	評価方法
1 本時の目標を確認する。			
<p>○前時の振り返りをする。</p> <p>T) 作者の心情や歌われている情景を想像しながら朗読してみよう。</p> <p>○本時の目標を確認する。</p> <p>詩と組み合わせる写真を選び、詩と関連付けた文章を書こう。</p>	<p>・前時に使用した詩の解釈を拡大したものを黒板に貼り内容を想起させる</p>		
2 詩と組み合わせる写真を1枚選び、詩と関連付けた説明文を書く。			
<p>○2枚の写真のうち「初恋」のイメージに合うと思うものを選び、説明文を書く。</p> <p>2枚の写真 〈林檎と少女〉 〈林檎と細道〉</p>	<p>・どちらの写真を選んでも間違いではないことを伝える。 ・選んだ写真によって2グループに分かれさせる。【教室移動】 ・字数の条件だけ示し、その他の条件は自分で考えさせる。</p>		<p>ここから 少人数指導</p>
3 説明文を比較・分析する。			
<p>T) このような説明文を書くときの条件を確認しよう。</p> <p>○字数の条件を満たしている。 【字数】①</p> <p>○後に続く文がある場合は文と文の関係を整える。【整った文章】②</p> <p>・自分がどの写真を選んだのか、立場を明確にしている。 【立場の明確化】③</p> <p>・組み合わせる理由が分かるように詩と選んだ写真とを関連付けて書いている。 【関連付けた根拠・理由の明確化】④</p> <p>・詩の中の言葉を使って書いている。 【詩の言葉を引用】⑤</p>			
<p>T) 5つの条件が満たされているか、グループで分析しよう</p>			
<p>○お互いの作品を比較・分析する。</p>	<p>・比較・分析しやすくするためにさらに2～3人のグループに分け検討させる。</p>		

<p>ワークシートで5つの条件が満たされているかチェックしていく。 ①【字数】 ②【整った文章】 ③【自分の立場】 ④【根拠・理由】 ⑤【引用】</p>		<p>・自分の意見が相手に効果的に伝わるように、根拠を明らかにし、論理の展開を工夫して書いている。</p>	<p>作品</p>
<p>《根拠として期待される意見》 (林檎と少女) の写真グループ ・「薄紅の秋の実に人こひ初めしはじめなり」という表現からまだ成熟していない林檎と可憐な少女のイメージを重ねているから。 (林檎と細道) の写真グループ ・「おのづからなる細道」は二人の恋の証であり、それが大きな道ではなく、「細道」であるところに「初恋」の淡いイメージが重ねられているから。</p>	<p>・5つのチェックがつかなかった作品については、何が足りなかったのかグループで確認させる。</p>		
<p>T) グループの中で最も説得力のある説明文を選んでみよう。</p>			
<p>○選ばれた説明文を発表する。</p>	<p>・次の順序で発表させる</p> <p>① 作品を通読する。 ②【立場】【根拠】【引用部分】を述べる。</p> <p>・選ばれた説明文が、5つの条件を全て満たし、根拠も説得力がある事を全体で確認し評価する。</p>		
<p>4 次時の学習内容を確認する。</p>			
<p>○別の写真を選んだグループがどのようなまとめ方をしているのか交流し、評価問題をやる。</p>	<p>《正答例》 (林檎と女性) の写真の場合 私は「薄紅の秋の実に人こひ初めしはじめなり」という表現が印象に残りました。赤ではなく薄紅の林檎と可憐な少女のイメージとが重なり、初恋の初々しさが感じられるので少女の写真が合うと思います。 (だから、私はこの写真と組み合わせます。) (94字)</p> <p>(林檎と細道) の写真の場合 詩の中の「林檎畠の樹の下におのづからなる細道」は「われ」が「君」に会うために自然にできた小道です。細道の写真の方が2人の恋を象徴しているし、「初恋」の淡いイメージに合うと思います。 (だから、私はこの写真と組み合わせます。) (91字)</p>		

検 証

検証の方法

全国学力・学習状況調査の類似問題を作成し、「詩の内容や構成、表現上の特徴などを踏まえて写真を選び、詩と関連付けて自分の考えを書く力」の変容を見る。(単元最終時の評価テストで実施)
 ※問や条件は全国学力・学習調査の中学校国語B問題 ③の三と同じ。ただし、条件3の文字数については80字以上100字以内とする。


この赤い靴の女の子は実在する女の子です。名前は岩崎きみ。きみちゃんは母親と二人で生活していました。きみちゃんが3歳になった頃、当時、開拓地として注目を集めていた北海道へ渡ることになりました。しかし、その開拓地での生活はあまりに厳しく、母親は函館で宣教師をしていたアメリカ人、ヒュイット夫妻にきみちゃんを泣く泣く泣く養女として託さなければならなくなったのです。この詩の「異人さん」とはヒュイットさんのことです。そしてきみちゃんが6歳になった頃、ヒュイットさんはアメリカへ帰国しなければならなくなってしまう。もちろんこのことは母親の耳にも入っていました。

この話を聞いた野口雨情はきみちゃんに「赤い靴をはいた女の子」というイメージを抱き、この詩を書きました。母親は、きつとアメリカで楽しく元気に暮らしているであろう我が子の幸せを喜ぶ反面、養女にしてしまったことへ罪悪感から、自分を責めながらこの詩をかみしめていたということです。


(赤い靴)

野口雨情 うじょう による。

②



①



検証結果

1 全体の傾向

	条件① (字数)	条件② (整った文章)	条件③ (自分の立場)	条件④ (根拠・理由)	条件⑤ (引用)
全国学力・学習調査(事前)	95.8%	29.2%	41.7%	58.3%	87.5%
評価テスト(事後)	96.0%	80.0%	92.0%	88.0%	92.0%

2 個の変容

①学習事項の定着が概ね図られている生徒Aの変容

<事前>

【全国学力・学習調査】

詩の中に樹は土に立っているとあるがこの写真だとそれを表すことができるし、そして枝先は空に溶けているとあるがこの写真だと空との一体感を表すことができると思ったからです。(だから、私はこの写真と組み合わせます。)



<分析>

- ・整った文章で書かれていない。
☞「～思った**からです**。だから、私は～」という表現。
- ・自分の立場が明確でない。
- ・詩の中の言葉を引用しているが「 」でくくっていない。

<事後>

【評価テスト】

ぼくはこの詩の「赤い靴はいてた女の子」「赤い靴見たたび考える」から①の写真が合っていると思います。赤い靴というのは女の子を象徴していてすぐに小さな女の子というのが分かると思います。(だから、私はこの写真と組み合わせます。)



<分析>

- 整った文章で書いている。
☞「**だから**、私は～」につながる表現。
- 自分の立場が明確にしている。
- 詩の中の言葉を「 」でくくって引用している。

学習事項の定着が十分ではない生徒Bの変容

<事前>

【全国学力・学習調査】

なぜこの写真にしたかという、根のことや枝のことそして空に向かってのびていることが詩にあったので、一番この詩にこの写真があうと思いました。(だから、私はこの写真と組み合わせます。)



<分析>

- ・整った文章で書かれていない。
☞「なぜ」ということばに対応する文末表現になっていない。
- ・自分の立場が明確でない。
- ・詩と写真とを関連付けていない。
- ・詩の中の言葉を引用していない。

<事後>

【評価テスト】

私は①の写真を選びます。それは「赤い靴はいてた女の子 異人さんにつれられて行っちゃった」のところから、船に乗って外国に連れて行かれたことが分かるので、船に乗っている写真があうと思いました。(だから、私はこの写真と組み合わせます。)



<分析>

- ×整った文章で書かれていない。
☞「それは」ということばに対応する文末表現になっていない。
- 自分の立場が明確になっている。
- 詩と写真と関連付けている。
- 詩の中の言葉を引用している。

分析・考察

○条件①の「字数」、また、条件⑤の「引用」については「 」でくり分りやすく書くことができない生徒もいたが、ほとんどの生徒が条件を満たしている。

条件③の「自分の立場を明らかにする」は、解答用紙に“組み合わせる写真の記号”を記入する欄があったため、この問に対しては自分の立場を文章中に表す必要性を感じなかった生徒が多くいたと考えられる。

条件④の「詩と選んだ写真とを関連付けて書く → 根拠・理由を明らかにする」については、根拠・理由を掘り下げて書いている生徒が少なかった。例えば、「枝先は空に溶けてる」の光景が一番合っているのはAの写真だと思った」といったように、詩の中のことばと選んだ写真のどのような部分に整合性を感じたのかを書ききれていない。

今回の問で一番着目すべき点は条件②の「文と文との関係」である。本学年の生徒は授業の際に「根拠を明らかにして述べる」学習習慣が小学校時より身に付いており、「わたしは・・・だと思いま

す。理由は〇〇**だからです**。**だから**私は…だと思ひます。」と解答した生徒がほとんどであった。本来ならば「～〇〇**だからです**。**以上の理由により**私は…だと思ひます」と述べるべきであるが、小学生にとって「以上の理由により」という言い方はとても難しいと考へ、「だから」ということばに言い換えて使用させていたのではないかと考へる。「だから」という接続詞は、その直前までの文章を受け、結論を述べる際に使用することばであることを指導する必要がある。

○ 本単元は第1次・第3次・第4次に学習指導要領 第2学年及び第3学年（B書くこと カ）の「書いた文章を互いに読みあい、論理の展開の仕方について自分の表現に役立てること」を実践することにより、「自分の立場を明らかにすること（B書くこと イ）」、「根拠を明らかにし、論の展開を工夫して書くこと（B書くこと エ）」につなげていった。第1次では全国学力・学習調査での正答例と生徒自身が解答した誤答例を比較しながら、第3次ではグループ別に分かれ、実際に書く活動を取り入れながら、自分や友だちの作品を評価し合い、第4次では他のグループの作品を交流し、自分の表現に役立てる活動を行ってきた。その結果、全国学力・学習調査終了時の定着度よりも、事後の定着度はほとんどの生徒が概ね満足できると言える数値にまで高まってきたように思ふ。しかし、前述の生徒Bのように「書いた文章を読み返し、文や文章を整えて、説得力のある文章にすること（B書くこと オ）」といった推敲する力が弱い生徒がいる。

○ 生徒Bの場合「だから」ということばは、直前に述べた内容を受けて続ける語彙である。そのため、「～である。だから～」といった使い方をすべき語であることを指導した。併せて、「なぜ」を文頭に置いた場合、文末は「～からです。」となることも学習した。そのため、生徒Bは「なぜ」ではなく、「それは」を文頭に置いたものと思われる。しかし、この場合も文末表現は「からです。」が適切であることに気がついていない。また、「それは～思ひました。」では、主述の関係がねじれていることにも気がついていない。

これは、第1学年〔言語事項〕（1）エ「話や文章の中の段落の役割や文と文との接続関係などを考へること」の力が不十分とも言える。未定着の既習事項を補いながら当該学年の内容を指導するという、螺旋を描きながら高まる国語科の特質を生かした指導を行う必要がある。また、「書くこと」と「話すこと・聞くこと」及び「読むこと」とを相互に関連付け、よりよい言語活動を行う能力を確実に身につけることができるように指導していく必要もある。